

# NICE SMILE

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター ● 院外・院内広報

2013  
**秋**  
VOL.55

発行・責任者：広報誌編集委員会委員長 永井 義幸 / 〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の23 TEL072-469-3111(代) FAX072-469-7929  
http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/

## 南泉州に新しい地域医療を!



りんくう総合医療センター 理事長  
八木原 俊克

りんくう総合医療センターは、本年4月に大阪府立泉州救命救急センターと統合し、新しい「地方独立行政法人りんくう総合医療センター」として再出発しました。この統合は大きなチャンスであり、現在、全職員が一丸となり、救命救急を含めた高度な救急診療と専門性の高い診療機能を融合させた新しい診療体制の構築に向けて走り始めています。

泉州救命救急センターは、従来から泉州地域の三次救急を担ってきた独立型救命救急センターとしての高度な診療機能をそのまま継続しながら、新しい病院全体の救急診療と集中治療機能を支えています。さらに病院の各専門診療科は救命診療科と密接に連携することにより、より効率的で、より良質な救急診療の支援が可能になっています。

特に心臓センター、脳神経センターとは救急搬送受入れ窓口を一つにして、救急診療の効率化と迅速化が図られています。また、救命診療科と外科が連携した急性期外科センター（Acute Care Surgeryセンター）は、重症外傷を効率よく治療できる新しい概念のセンターとして注目を集めています。

さらに、新たな診療科として総合内科・感染症内科を設け、病院全体の総合診療機能のみならず、内科的重症疾患の集中治療体制の強化を図りつつあります。これらの改革により、救急医療を含む総合診療と高度な専門医療とが総合的に相互補完する体制ができ、これからの地域医療を支える新たな診療体系になると期待されます。

また、りんくう総合医療センターは関西国際空港の搬送先指定病院の中で最も空港に近い位置にあることから、これまで関空から入国される外国人と在住外国人の診療で多

くの実績をあげる一方で、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語などの医療通訳者の育成では草分け的存在です。国際外来を昨年11月に国際診療科に改め、本年3月には外国人患者受入れ医療機関認証制度の認証を受け、国際診療では全国の注目を集めています。立地条件から当センターが果たすべき地域医療の一つと考えて専従スタッフの充実を図り、医療のグローバル化に対しても今後の対応とさらなる発展性について検討しています。

平成26年度には研修センターを併設することとしており、公的基幹病院としての自覚のもとに、より理想的な地域医療の実践と共に未来の医療人を育成できるこの地域における安定した基幹病院になるための改革を行っているところです。現状では、まだスタッフ不足などの課題がありますが、地方独立行政法人としての特徴である機動性・柔軟性・透明性を大いに発揮して、効率的な病院運営による安定した経営基盤の確立を図り、患者様に優しい医療環境の整備に一層尽力すると共に、医療従事者の労働・教育環境を整えることにより、職員にとってもやりがいのある働きやすい職場にすることも目標にしています。

診療報酬改定や消費税率引き上げなど、当院に課された近々の課題が山積する中、高齢化社会の進行に対応する施策としての病床配分の修正を伴う医療体制の再構築、介護や在宅医療を充実させる地域包括ケアの整備など、中長期的課題として、病院完結型医療から地域完結型医療への移行が提言されています。病院完結型医療とは、一つの病院が急性期から慢性期・在宅医療まで一貫して治療を行うことを言い、地域完結型医療とは、この一連の流れを地域の医療機関・施設等の中で患者様を中心とした連携体制を作り、地域全体で患者様に医療サービスを提供していくことを言います。

当院は、泉州南部地域の大きな特徴である強固な地域連携の絆をさらに一層強めることで、今後大きな変貌が予想される医療環境に適切に対応していくため、病病・病診連携をさらに大きな輪に広げて、皆様に安心して生活していただける環境を整えて参りたいと考えております。

今後とも、皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

## CONTENTS

「南泉州に新しい地域医療を!」.....1	理事長 八木原 俊克
新たな診療科の紹介.....2	「総合内科・感染症内科」 倭 正也
	「救命診療科をよろしくお願ひします」 水島 靖明

新たな病院機能の紹介.....3	「Acute Care Surgeryセンター」 渡部 広明
	「MRIが新しくなりました」 櫻井 康介
イベント・行事.....4	「りんくう公開セミナー」 森内 秀祐
	「振込めサギを未然に防止!」
	「外国人受入れ医療機関承認」
	編集後記・人権標語

## 《新たな診療科の紹介》

### 平成25年4月より総合内科・感染症内科を立ち上げました

総合内科・感染症内科 部長 倭 正也

現在の医療は高度の専門化が進んでいる一方で、様々な病気を併せ持つ患者様に対して「全人的医療」を行うことのできる医師が少なくなっています。そこで当院では、平成25年4月より総合内科・感染症内科を新たに立ち上げ、診断のついていない症状ではじめて当院を受診され、どの専門科を受診すればよいかわかりにくい患者様に対して、専門分野を横断的に診療する幅広い総合診療を行っています。さらにその際に感染症診療を行う機会も多く、奈良県立医科大学感染症センターから山田豊医師を迎え、当科にて診療を行っています。

具体的には、一般内科疾患全般（内科救急疾患を含む）をはじめ原因不明の持続する発熱（不明熱）、疼痛などといった症状を持たれた患者様の外来、入院診療を行います。また、当科以外の各専門科において入院治療を要する患者様に対しても、専門科と良好なコミュニケーションを保ち、多角的に相互補完するバランスのとれたチーム医療を実践し、患者様の全身管理のサポートを行っています。

本年4月、りんくう総合医療センターと泉州救命救急センターがひとつの病院として統合しました。そこで当院総合内科・感染症内科の大きな特徴として救命救急センターの先生方との相互連携をカンファレンスなどを通して深め、救急医療を含む総合診療と高度な専門医療とが多角的に相互補完する、これからの地域医療を支える新たな診療体系の構築を当科がリードして行うことを目標に努力する所存です。そのために、地域の先生方とのさらなる連携強化に努めていきたいと考えております。今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



部長 倭 正也 (左)  
感染症センター副センター長 山田 豊 (右)



### 救命診療科をよろしくお願ひします

大阪府泉州救命救急センター所長代行  
兼 副所長 兼 重症外傷センター長

水島 靖明

泉州救命救急センターは、救急患者の初期治療から、手術などの根本治療、また、集中治療や病棟での入院治療を、センター内で自己完結できる設備を整えており、センター内に集中治療室だけでなく、CT室や血管造影室、手術室を完備しています。循環器疾患や脳卒中などは、各診療科と共に治療を行っていますが、外傷患者などは、初期治療から、手術、集中治療、病棟での治療まで、救命診療科のドクターが、一貫した治療を行っています。

外傷診療に関しては、JATEC（外傷初期治療ガイドライン）の発祥の地であり、さらに現在は、大阪府立大学獣医学部と共同で外傷外科手術治療戦略コース（Surgical Strategy and Treatment for Trauma; SSTT）も、開発、運営を行っています。このように外傷教育に積極的に取り組んでいるとともに、その他の研究をはじめ、優れた業績もあります。

全国各地から、泉州救命救急センターのもと、研修したい、働きたいと医師が集まり、現在、救命診療科には22名ものドクターがおり、日本でも屈指の救命救急センターです。各医師は、個性豊かな面々ではありますが、診療にあったっては、チームワークを最優先として診療にあたっております。いったん診療を離れると、当直など共有する時間が多く、食事の際などは、皆で和気あいあいとした雰囲気です。

どうぞこれからも救命診療科の面々をよろしくお願ひいたします。



## 《新たな病院機能の紹介》



# 「Acute Care Surgeryセンター」 ～救急医学と外科学が融合した新たな一領域～

Acute Care Surgeryセンター長 兼 外傷外科 部長 渡部 広明

りんくう総合医療センターでは、昨年8月に大阪府泉州救命救急センターと外科とが協働で急性期外科に対応するため、新たに「Acute Care Surgeryセンター」を設立いたしました。

Acute Care Surgeryという領域は、欧米において新たに確立した一領域であります。2005年に米国外科学会が「重症体幹部外傷」、「救急外科」、「外科的集中治療」の3つを柱とした外科の一領域として提唱しました。日本においても2009年にAcute Care Surgery研究会が発足し、本年1月には日本Acute Care Surgery学会へと発展したところであり、今後日本においてますます発展していく一領域と考えられております。

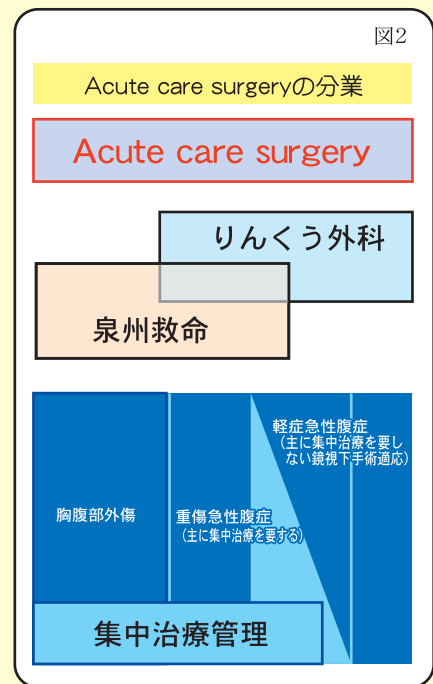
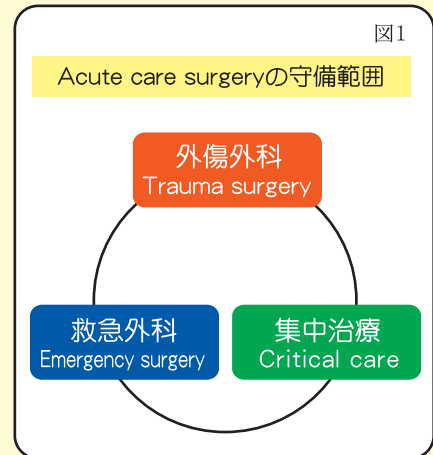
この新しい領域であるAcute Care Surgeryに対して、りんくう総合医療センターでは、当泉州医療圏で発生したAcute Care Surgery症例を受け入れ治療完結できるよう「Acute Care Surgeryセンター」を設置いたしました。こうしたセンターの設置はこれまで日本には例がなく、日本初の試みであり日本全国から注目を集めているところです。

さて、このAcute Care Surgery担当する領域ですが、上述のごとく大きく三つの領域を担当しております(図1)。この三つのいずれも実施可能な体制を完備し、対応するのが「Acute Care Surgeryセンター」であります。

一つ目の「重症体幹部外傷」であります。これは交通外傷などの高エネルギー外傷により発生した重症外傷患者の手術的治療を主な役割としております。当院内の「重症外傷センター」(泉州救命救急センター内に設置)内における初期診療の中で、特に胸部腹部における手術適応例に対して迅速に手術を開始いたします。

二つ目の「救急外科」は、いわゆる急性腹症症例から軟部組織感染症によるガス壊疽など緊急で手術対応を要する外科的疾患をその領域としております。急性腹症においては、急性虫垂炎から重症敗血症を伴う腹膜炎まで幅広く対応しております。特に集中治療を要しない軽症の症例は外科が対応し、集中治療を要するような重篤な疾患群に関しては泉州救命救急センターが対応しております(図2)。症例の軽重にかかわらず手術が必要と考えられる急性腹症などの外科症例に対しては、24時間対応しておりますので是非ともご紹介いただければと思います。

三つ目の「外科的集中治療」では、重篤な外傷手術例や救急外科症例のうち集中治療管理を要するものに対して適切な全身管理を行っております。以上の3つの領域の疾患を確実に受け入れ、治療完結することを使命として「Acute Care Surgeryセンター」は誕生いたしました。是非とも当センターをご活用いただければ幸いです。



## 最新鋭の3テスラMRI装置を導入しました！



放射線科 部長 櫻井 康介



MRIが更新されました。新しい装置は磁場強度が3テスラになり、従来よりも短時間で高精細の画像を得ることができます。対象領域は脳神経・脊椎髄・四肢関節、非造影MRAとなります。おおむねルーチンプロトコルもかたまり、従来よりも高精度の画像が提供できております。また、従来行うことができなかった特殊検査もできるようになります。特殊検査につきましては、これから順次対応を図っていく予定です。

検査時間も従来30分単位であったものが20分単位に短縮されましたので、従来よりも予約が入りやすくなることと思います。乳腺・肝臓・骨盤MRIは、従来型MRIでの検査になります。こちらは検査時間は従来通りの30分単位ですが、従来型MRIに集中していた検査が随分と減りますので、こちらも予約が入りやすくなることと思います。よろしくご活用ください。

## 《イベント・行事等のご案内》

### りんくう公開健康セミナー

脳神経センター長 森内 秀祐



3月17日、「りんくう公開健康セミナー：明日のために考えよう。脳卒中からあなたを守る」が当センター主催、産経新聞社共催により泉の森ホール 大ホールにて開催されました。定員1376名のところ、ほぼ満席の1092名の方にご参加いただきました。

特別講座として、二度の脳卒中を乗り越えて現在も活躍中の西城秀樹さんをお迎えして、ご自身の体験についてお話し頂きました。2度目の脳卒中はかなり生活の質に関わるもので、長期リハビリが必要にもかかわらず、医療制度上、リハビリ医療に日数制限があり、実施できない事があるという問題等も指摘されていました。

この三大疾病として知られる「脳卒中」ですが、身近なようで、実はよく分からないことも多いことから、市民の方に、最近の情報を伝えるために開催させて頂いたものです。

血管内治療などの最新の脳卒中治療をはじめ、発病前の予防から発病後の社会復帰までの道のり、地域医療の在り方など、地域のみなさまに知って頂きたいことを西城さんを交えて、脳神経外科医、看護師、リハビリテーション理学療法士、診療所の各分野の専門家が分かりやすく、お話しさせて頂きました。

今回の開催は、市長、理事長、院長、事務局、病院関係者の方々のご支援で実りあるすばらしい健康セミナーとすることができました。本当にありがとうございました。

### 泉佐野警察署から表彰されました！

#### 当院受付スタッフ三人が 振込めサギを未遂に防止！

4月24日(水)に泉佐野警察署において、当院勤務のフロアマネージャーの中西と自動支払い機案内係の山本、杉谷（委託職員）が振り込めサギを未遂に防いだ功績により表彰されました。三人の連携により、当院内のキャッシュコーナーを利用した振り込めサギ5件が未遂となりました。

今回の振り込めサギなどからの被害防止だけでなく、引き続き患者さまへのサービスの向上に努めてまいります。



### 外国人患者受入れ医療機関として、 日本で初めて認証されました

国際診療科 部長 南谷 かおり

当院は関西国際空港から一駅で、近隣にホテルや大学もあるため、以前から外国人患者の受診が多く、語学が堪能なスタッフやボランティア通訳の協力を得て、院内通訳サービスを充実させてきました。本年2月には「外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)」を受審し、翌月に日本で初めて認定された3病院の一つとなりました。

当院の国際診療科（旧名/国際外来）では、これまで様々な外国人診療の問題に対応してきました。言語のみならず医療文化や制度が違うため、医療従事者と患者の相互理解が難しいこともありますが、通訳者を介してコミュニケーションを図り、解り合おうとする姿勢で信頼関係を構築しています。その経験と実績を基盤に、院内各部署と連携をとり、外国人対応のフローチャートやマニュアル化を進めてJMIP受審に臨みました。

外国人医療の問題を整理し、解決法を全員で一緒に考えることで生まれた「チーム医療」の連帯感や協力体制は、よりよい医療や改善点につながり、それは日本人患者にも還元されています。これからも誰もが安心して医療を受けることができるよう、スタッフ一同頑張っていく所存です。

### 編集 後記

編集委員  
中川 直樹(薬剤科)

本年4月より当院は隣接する泉州救命救急センターと統合され、今まで以上に泉州南部地域の医療を担う基幹病院としてスタートしました。『専門医療』と『救急医療』の組み合わせでより良い医療を提供できる体制が整いました。『組み合わせ』と言えば普段服用されているお薬にも良い組み合わせ・悪い組み合わせがあるのをご存知でしょうか。問題となるのは悪い組み合わせで、組み合わせにより

お薬が効きすぎ、副作用が強くなることがあります。また逆にお薬の効果が少なくなってしまうこともあります。

病院や診療所を受診される際は現在服用されているお薬の内容がわかる『お薬手帳』をお持ちください。『お薬手帳』は東日本大震災でカルテなどの医療情報が被害を受けた中でも大変役に立ちました。まだお持ちでない場合は、お近くの薬局で配布していますのでご利用ください。



人権標語 **人権は みんなが持つもの 守るもの**



りんくう  
総合医療センター  
MOBILE SITE